

沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2011年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

2011

2011年度後期

学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

学長 神山 繁實

毎年、学期の終わりに学生による授業評価を実施しているが、その結果がどのようにフィードバックされているのか知りたいと思うが、無記名なのでフィードバックを試みるとしても、抽象的にならざるを得ない。全体的にみて、教員に対する授業準備や授業方法に対する評価に概ね良好と言える。授業のため学生を相当意識して、教員もそれ相当地に準備をしているので、学生がどのように受け止め、教員の教育的意図にどの程度呼応できているか、確認の必要があろう。

授業評価の目的は、教員の授業方法のスキルアップを目指すことも目的の一つであるが、教員の教育的努力が授業を受けている学生にどの程度伝わっているのかを、確認する作業である。統計にも出ているが、教員に対してかなりシビアな評価をする学生自身の、学生としての基本的なあり方も問われる。先ず、授業態度がどうか、礼儀正しい学生も少なくないが、家庭生活のスタイルがそのままクラスに持ち込まれている。わずかな学生であるが、クラスにかなり遅れて教室に来る者、おしゃべりが多く、静かだと思っていると居眠りをしているという具合である。結局、教員が根負けをするケースがある。解決策は成績評価にこれを反映させることである。

質問に関する問いであるが、質問が少ないことは、学生の側に予習をしていないことの現れであろう。授業中に教員が敢えて質問を投げかけて、対話の関係の中で授業を進めることは意味がある。質問したり、教員の質問に答えたりするためには、学生自身がある程度の授業の準備ができていないと、質問も出てこないし、質問に答えることもできるはずもない。このことは、Q11, 12, 15 に関係している。最低限決められている予習復習の時間をしっかりとる生活習慣を形成しておく必要があろう。現状では、語学系や秩序立てて積み立ていかなければならない科目の場合、ほとんど効果がない、ということになる。

このアンケート調査には現れてこないが、学生個々人の学習の質を問うQも必要である。

最後に、豊かな個性と輝く能力を備えている学生が増えてきているのも事実である。

アンケート調査に協力してくださった学生及び先生方に感謝すると共に、アンケート処理のために協力いただいた皆さんに心から感謝の意を表したい。

沖縄キリスト教学院大学

自己点検・評価・改善委員会委員

(2011年度 後期)

神 山 繁 實 (委員長・学長)

高 崎 正 名 (委員・人文学部長)

金 永 秀 (委員・宗教部長)

大 城 亘 武 (委員・教学部長)

上 原 明 子 (委員・入試部長)

近 藤 功 行 (委員・キャリア開発部長)

内 間 清 晴 (委員・図書館長)

A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)

与那覇 明 弘 (委員・事務局長)

沖縄キリスト教学院大学
2011年度後期
学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

1 学生による授業評価の概要

はじめに

今回の学生による授業評価報告書は、2011 年 10 月から 2012 年 2 月にかけての学期で開設された全 81 科目、113 クラスについてのデータを分析したものである。評価活動は 2012 年 1 月に実施された。本章では全てのクラスを一括して分析する。すなわちクラスサイズの大小は問わず、回収された 2452 件の評価票についての統計分析の結果を提示する。

1 評価項目ごとの度数分布

全回答票を評価項目別に一括して度数分布を求めた。評価は 5 段階法による。評価は 17 の視点（項目）から行っている。（調査票は章末に掲げる） そのうち 16 項目は 5 段階法で評定し、1 項目は 6 段階法評定する。評価の基準は次の通りである。

- 5 : 非常にそう思う
- 4 : そう思う
- 3 : どちらとも言えない
- 2 : そう思わない
- 1 : 全くそう思わない

なお、Q15 については次の様にしてある ;

- 5 : 3 時間以上
- 4 : 2 時間くらい
- 3 : 1 時間くらい
- 2 : 30 分くらい
- 1 : ほとんどしなかった

Q16 については次のようにしてある ;

- 5 : 秀
- 4 : 優
- 3 : 良
- 2 : 可
- 1 : 不可
- 0 : わからない

以下に結果について述べる（表 1～表 17 参照）。まず、Q1～Q17 について凡例を述べる。表中「度数」は、1～5（または 0～5）のそれぞれに評価した人数である。「パーセント」は、その度数の全 2452 延べ件数に対する比率を示している。「有効パーセント」は、「システム欠損値」除いた延べ件数に対する比率である。「システム欠損値」とは、無回答のことである。「累積パーセント」は、有効パーセントを積み上げたものである。

Q1 から Q17 の表は、それぞれ評価項目 Q1 から Q17 の評価結果について度数分布を示

す。比率は「有効パーセント」の数値を用いる。また、本文中では小数第1位を四捨五入して示す。

Q1「学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。」に対して75%の評価者が「5」（非常にそう思う）、と評価している。「4」（そう思う）、が18%であり、「5」「4」両評価を合算すると94%になる。授業への方向付けは極めて高い達成を示している、と考えられる。もっとも授業の目的の説明は「講義要項」に明記されているので授業中にあらためて説明するまでもないだろう。

Q2「宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。」については71%が「5」（非常にそう思う）と評価している。「4」（そう思う）評価は19%である。両者で91%である。この設問も、講義要項を読めば周知のことであり、Q1、Q2については取り立てて説明すべき事項ではないかもしれない。

Q3「先生は、授業について熱意がありました。」は、教員の授業展開の評価である。「5」評価の比率が79%である。「4」評価の15%と合算すれば94%となり、極めて高い比率となる。すなわち学生たちは本学教員が授業に「熱意」あり、と評価している、ことになる。

Q4「授業は、とてもわかりやすかった。」は受講生に対応した授業が実施されているかを調べるものだが、「5」評価した者の比率は67%である。「4」評価は20%である。

「1」評価「全くそう思わない」（2%）、「2」評価「そう思わない」（3%）を合算すると4%を数える。「分かる」授業が展開されていることを示唆する結果であるが、4%の者が否定的な評価をしていることには留意が必要であろう。

Q5「授業の準備はよくできていました。」で、教材研究や本時の計画がしっかり行なわれているかを推測することができる。教員要因の他に、授業に必要な機器備品等の整備状況も重要である。「5」評価は75%である。満足すべき結果であろう。「5」評価と「4」評価を合算すると93%に達する。

Q6「学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。」も教材研究に関連する評価項目である。70%が「5」評価、19%が「4」評価である。「1」「2」を合算した比率が3%ほどになり、一部に不満を表明する厳しい目もある。

Q7「授業は時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。」は、時間管理の問題である。「5」評価は77%である。「4」評価が16%、両者合算すると93%になる。「1」評価と「2」評価の合算は1%である。

Q8「わからないことを質問できる機会や工夫がありました。」は、学生の授業参加を促しているかどうかを評価するものである。「5」評価が71%である。2%ほどの学生が低い評価を下している。ところで、教員のする学生への質問は「質問の機会」であろうか。また、「何か質問はありませんか」と質問を促すのは「質問の機会」を作ることになるだろうか。あらかじめ質問の時間を設定することなのだろうか。

Q9「授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。」は、教員のクラス管理技量を問うものとなっている。「私語・居眠り・中座」を授業妨害の三悪だとすれば、その悪弊を排除する姿勢が問われている

ことになる。65%が「5」と評価している。「5」評価と「4」評価を合算すると 87%になる。「1」および「2」評価をして、対処が不適切と考える者が2%ばかりある。

Q10「この先生のこの科目を他の学生や他大学の学生にも受講を薦めたい。」は、授業への満足度の一端を示すだろう。「5」評価が69%、「1」および「2」評価はそれぞれ2%である。「5」と「4」の合算では87%になる。「推薦したくなる」授業としてかなり満足しているようである。

以上は、教員に対する評価であった、次に、学生自身の自己評価について見る。

Q11「私は、この授業に熱意を持って取り組みました。」は、64%が「5」評価をしている。「4」評価と合算すると84%になり、熱意の高さが表明されている。

Q12「授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。」は、学生の授業への熱意の具体的な例証となる。熱意があれば絶えずシラバスを見ながら学習を行なうであろう。53%が「5」評価である。「4」評価が19%、両方で72%である。「1」「2」評価を合算すると9%である。かなりの学生がシラバスを利用しているようである。全学生がちゃんとシラバスを参照するようになれば、Q1やQ2の評価は、「5」になるだろう。

Q13「授業中、私語や携帯電話（メール等）、中座など授業を乱すような行為はしませんでした。」は、学生自身の授業参加状況を尋ねるものである。評価「5」としたものは、66%である。「4」評価は20%であり、「5」評価と「4」評価を合算すると86%ほどになる。「1」評価が1%未満である、「2」評価が2%である。

Q14「この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。」によって、授業への「真面目な取り組み」ないし、学ぶことの本気度が推測できるだろう。「5」評価は55%、「4」評価は23%であり、78%以上が本気で学んでいるということであろう。「1」評価は1%、「2」評価は5%となっている。

Q15「この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。」は、授業への取り組みの強さを示すだろう。「1」評価が37%であった。「1」評価とは授業時間以外での学習を「ほとんどしなかった」ことを示す。「2」評価（30分くらい）、の評価の比率は31%である。合算すると67%である。少しは予習・復習等をしていると解釈できる「3」評価は22%となっている。3時間以上の学習をする「5」評価は4%、2時間くらいの「4」評価は7%である。学習時間に関する限り学生たちの不勉強ぶりは明白である。なお、この評価項目では6%（157人）の学生が「無回答」であった。この比率はおそらく短い学習時間を隠す自己防衛的な回答かもしれない。

Q16「この授業を全体的に評価してください。」は、授業クラスの総合的印象評価である。「5」評価をしたものの比率は53%である。かろうじて過半数を超えている。「4」評価は27%である。「4」と「5」評価の比率を合算すると約80%となる。まあまあ及第点であろうか。しかし、「1」評価と「2」評価を合算した比率が6%ある。無回答者が2%、「わからない」とした者が2%（36人）ある。

Q17「この先生の別の科目も受講したいと思います。」は、受講科目の授業が今後の授業に波及する効果を示唆するものであろう。今回の授業に満足度が高ければ他の科目へ

も誘因として働くと考えられるからである。「5」評価の比率は 65%、「4」評価が 21%である。8 割以上の学生が一応この科目の担当者の授業に興味関心を持っていたであろうことが示唆される。一方「1」および「2」評価を合算した比率は 5%あり、これらは授業内容あるいは授業担当者への失望の表れだと解釈できよう。その教員の授業あるいはキャラクターが受講生の趣味に適合しなかった、ということであろう。

表1 授業の目的

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	18	.7	.7	1.0
3	133	5.4	5.4	6.4
4	444	18.1	18.2	24.6
5	1844	75.2	75.4	100.0
合計	2445	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.3		
合計	2452	100.0		

表2 成績評価方法

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	11	.4	.5	.5
2	23	.9	.9	1.4
3	197	8.0	8.1	9.5
4	467	19.0	19.1	28.6
5	1745	71.2	71.4	100.0
合計	2443	99.6	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.4		
合計	2452	100.0		

表3 先生の熱意

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	14	.6	.6	.8
3	119	4.9	4.9	5.7
4	373	15.2	15.2	20.9
5	1937	79.0	79.1	100.0
合計	2449	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2452	100.0		

表4 わかりやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	41	1.7	1.7	1.7
2	66	2.7	2.7	4.4
3	222	9.1	9.1	13.5
4	479	19.5	19.6	33.0
5	1638	66.8	67.0	100.0
合計	2446	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	2452	100.0		

表5 準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	10	.4	.4	.4
	2	28	1.1	1.1	1.6
	3	141	5.8	5.8	7.3
	4	435	17.7	17.8	25.1
	5	1833	74.8	74.9	100.0
	合計	2447	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
合計		2452	100.0		

表6 理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	18	.7	.7	.7
	2	45	1.8	1.8	2.6
	3	199	8.1	8.1	10.7
	4	465	19.0	19.0	29.7
	5	1717	70.0	70.3	100.0
	合計	2444	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.3		
合計		2452	100.0		

表7 時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	11	.4	.5	.5
	2	17	.7	.7	1.1
	3	148	6.0	6.1	7.2
	4	391	15.9	16.0	23.2
	5	1875	76.5	76.8	100.0
	合計	2442	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	10	.4		
合計		2452	100.0		

表8 質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	12	.5	.5	.5
	2	36	1.5	1.5	2.0
	3	212	8.6	8.7	10.6
	4	439	17.9	17.9	28.6
	5	1747	71.2	71.4	100.0
	合計	2446	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
合計		2452	100.0		

表9 授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	13	.5	.5	.5
	2	41	1.7	1.7	2.2
	3	271	11.1	11.1	13.3
	4	519	21.2	21.3	34.6
	5	1594	65.0	65.4	100.0
	合計	2438	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	14	.6		
合計		2452	100.0		

表10 薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	36	1.5	1.5	1.5
	2	48	2.0	2.0	3.4
	3	224	9.1	9.2	12.6
	4	448	18.3	18.3	30.9
	5	1689	68.9	69.1	100.0
	合計	2445	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.3		
合計		2452	100.0		

表11 熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	19	.8	.8	.8
	2	46	1.9	1.9	2.7
	3	304	12.4	12.4	15.1
	4	577	23.5	23.6	38.7
	5	1498	61.1	61.3	100.0
	合計	2444	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.3		
合計		2452	100.0		

表12 シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	78	3.2	3.2	3.2
	2	120	4.9	4.9	8.1
	3	483	19.7	19.8	27.9
	4	467	19.0	19.1	47.0
	5	1295	52.8	53.0	100.0
	合計	2443	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	9	.4		
合計		2452	100.0		

表13 授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	7	.3	.3	.3
	2	47	1.9	1.9	2.2
	3	279	11.4	11.4	13.7
	4	495	20.2	20.3	34.0
	5	1610	65.7	66.0	100.0
	合計	2438	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	14	.6		
合計		2452	100.0		

表14 遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	33	1.3	1.4	1.4
	2	117	4.8	4.8	6.2
	3	376	15.3	15.5	21.6
	4	562	22.9	23.1	44.7
	5	1345	54.9	55.3	100.0
	合計	2433	99.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	19	.8		
合計		2452	100.0		

表15 予習復習時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	847	34.5	36.9	36.9
	2	699	28.5	30.5	67.4
	3	513	20.9	22.4	89.7
	4	152	6.2	6.6	96.3
	5	84	3.4	3.7	100.0
	合計	2295	93.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	157	6.4		
合計		2452	100.0		

表16 全体的評価

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	24	1.0	1.0	1.0
	2	120	4.9	5.1	6.1
	3	329	13.4	13.9	20.0
	4	631	25.7	26.7	46.6
	5	1263	51.5	53.4	100.0
	合計	2367	96.5	100.0	
欠損値	0	36	1.5		
	システム欠損値	49	2.0		
	合計	85	3.5		
合計		2452	100.0		

表17 別の科目も受講したい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	61	2.5	2.6	2.6
	2	53	2.2	2.3	4.9
	3	213	8.7	9.1	14.0
	4	488	19.9	20.8	34.8
	5	1527	62.3	65.2	100.0
	合計	2342	95.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	110	4.5		
合計		2452	100.0		

つぎに、各設問への回答の度数分布を棒グラフにして掲げる。(図1～図17参照) グラフ中の囲み内の数値は全体に対する評定者中の比率である。教員に関する設問の場合、すべて逆L字型になっている。「5」評価が突出し、以下低い比率となった形状である。すなわち、「5」評価が多く、その他の評価は少ない。良好な評価であることが分かる。

学生に関する場合もほぼ逆L字の形状をなし、学生たちは高い自己評価をしていることが分かる。

Q15「予習復習時間」が全17設問項目中、唯一逆L字型になっていない。「1」評価から「5」評価にかけてなだらかに漸減していく形状を示している。自学自習を「ほとんどしない」が一番多く、学びへの意欲の弱さを表しているかもしれない。

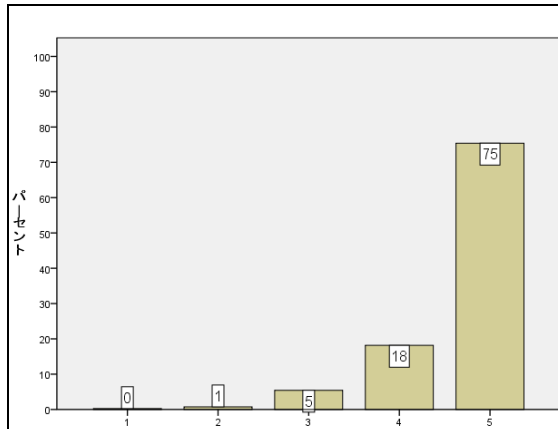


図1 授業の目的

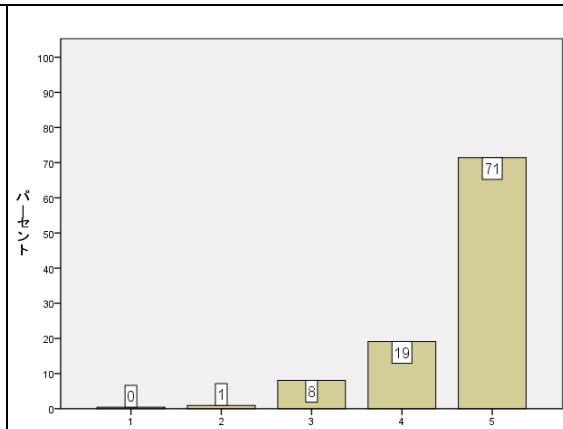


図2 成績評価方法

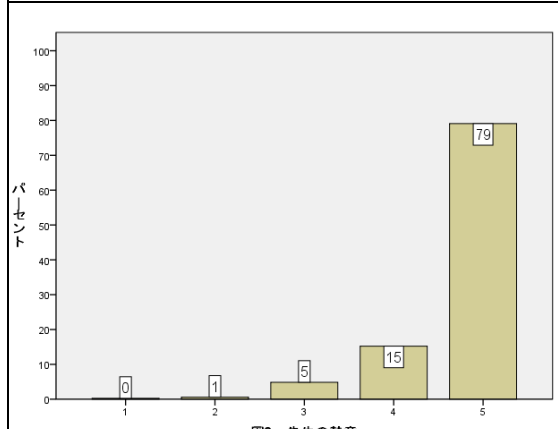


図3 先生の熱意

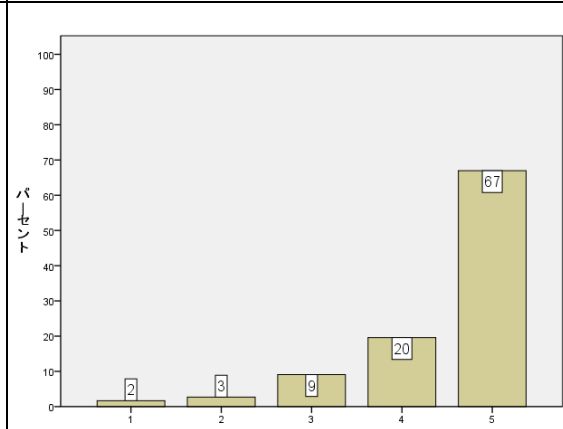


図4 わかりやすい

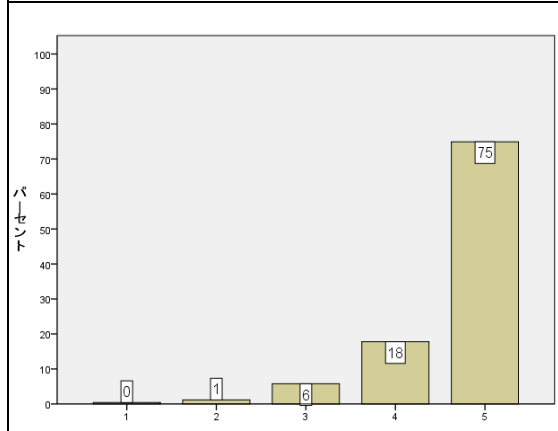


図5 準備よい

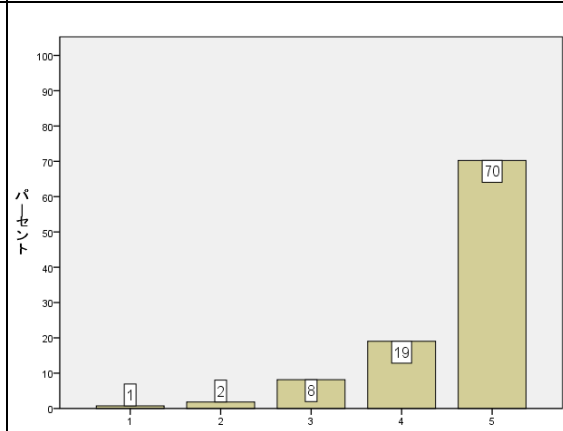


図6 理解興味の工夫

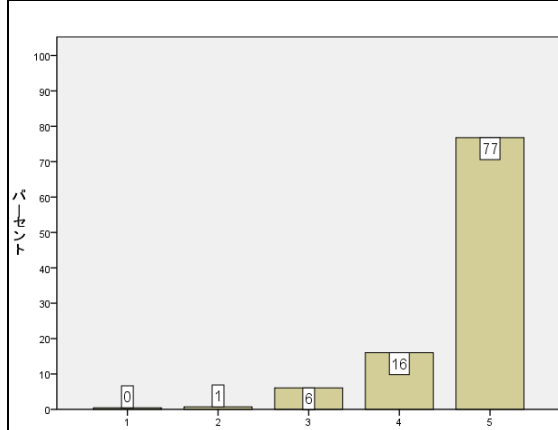


図7 時間どおり

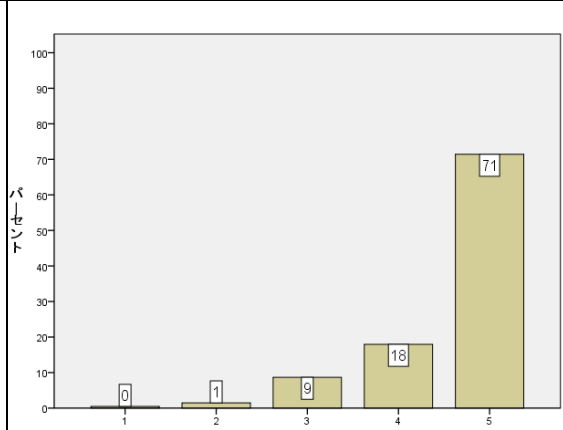
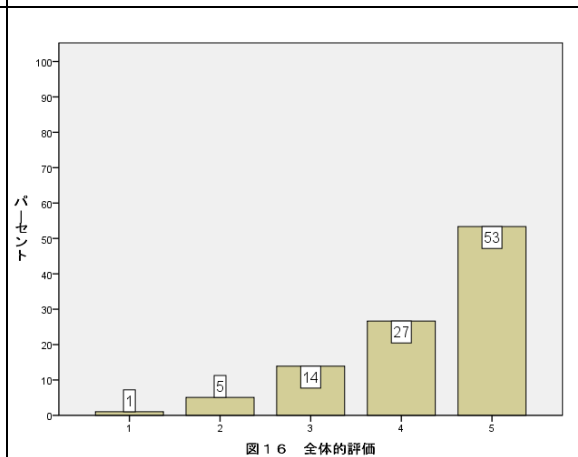
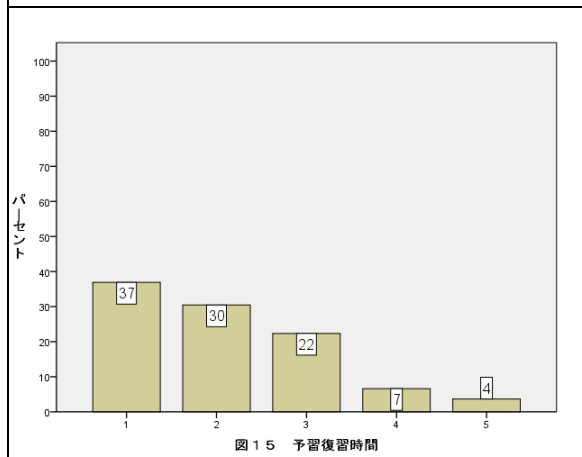
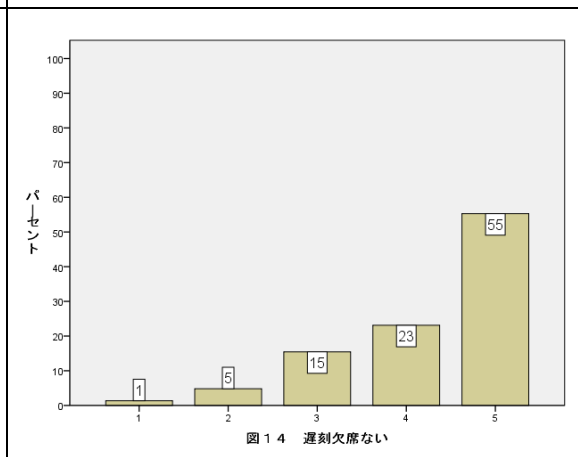
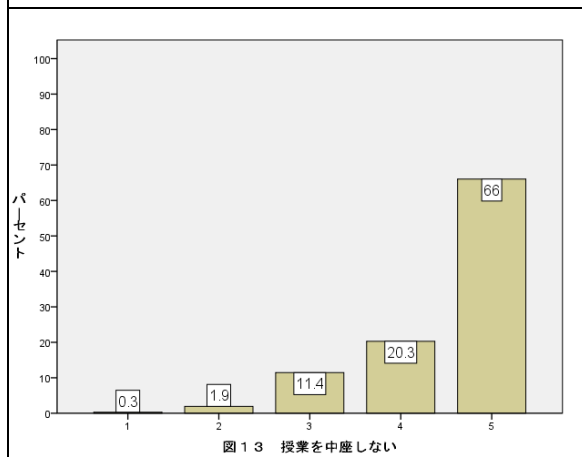
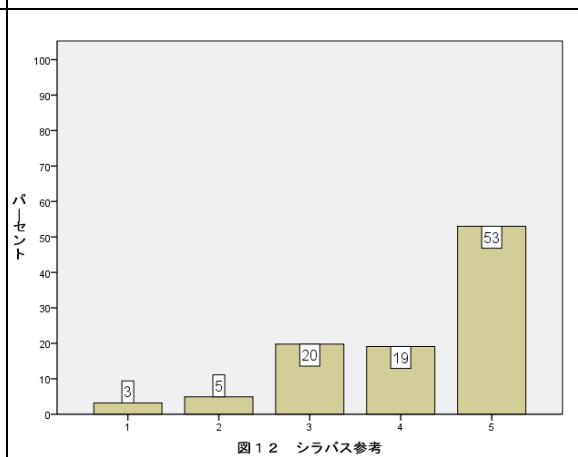
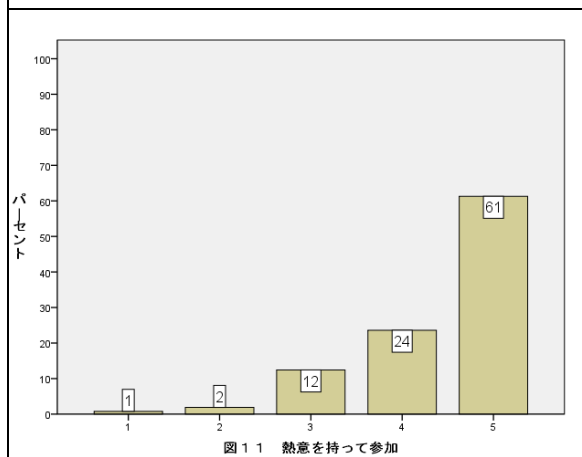
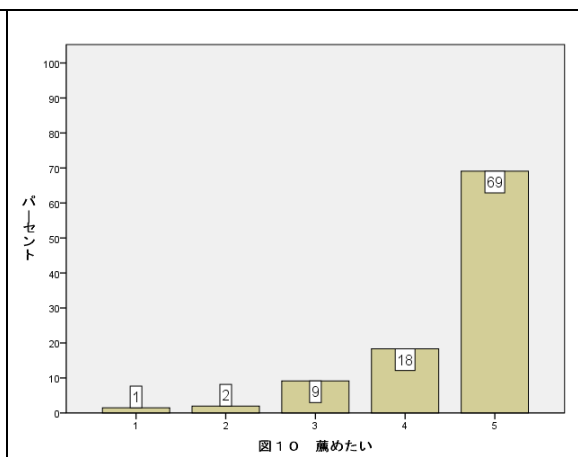
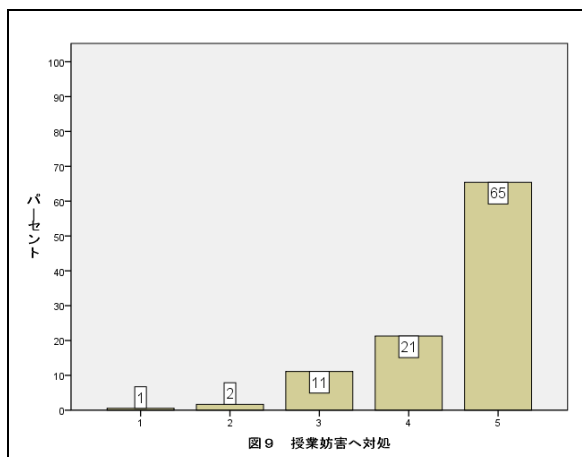
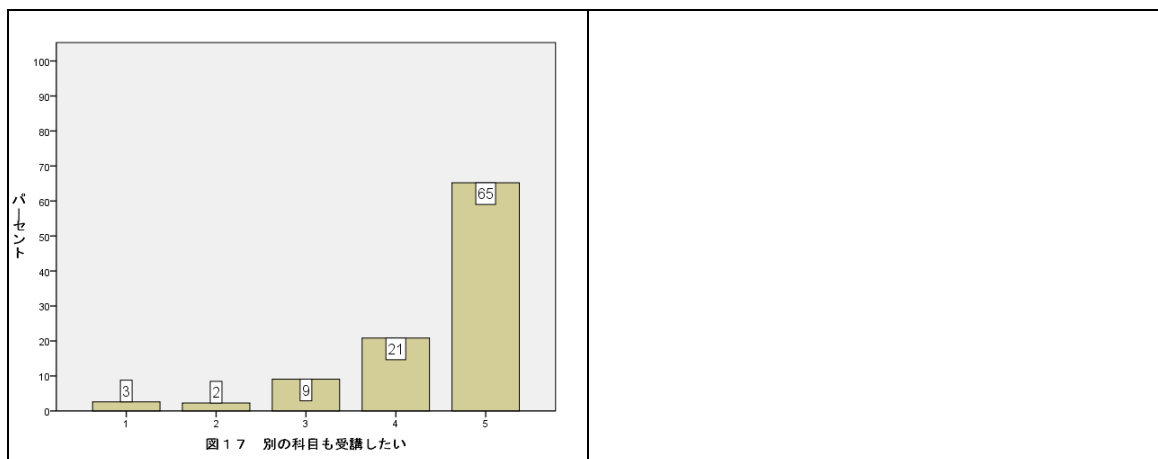


図8 質問の機会





2 学生による授業評価の検討

各設問に対する「1～5」の評定を、それぞれ1点から5点に数値化し、これを元にし、平均値等の基本等計量を求めた。

ここでは、全クラスの評価を一括した結果をしめす。

全般的に、5点満点中4点以上の評定平均となっており、かなり満足できる授業が展開されていることが示唆される。とりわけ、教員に関わる項目では4.5点以上の評価がなされており、極めて高い評価となっている。特に「先生の熱意」が高評価（4.7）なのは、大学の人的資産が高く評価されていることであり、まずは教員にとって「安心」してよい材料となろう。ただし、これは全教員を一括した場合のことであって、個々の教員にあっては濃淡があることは言うまでもない。

学生個々人の自己評価に関わる5項目でも4項目は「4」以上の評価であり、熱心な学生像がイメージされる。学生要因としての「予習復習にかかる時間」が2.1となっており、ほぼ30分程度の学習時間である。学生は授業時間以外には勉強をあまりしない。それでも講義は進行して行く。予習復習をしなくても成り立つ講義が本学では行われているとすれば由々しき問題である。教員は学生に学習させる工夫が求められている、ということであろう。本学教員は、大きな課題を抱えていることになる。

Q16「全体的評価」は、4.26となっており、十分満足すべき結果であろう。ただし、評価を「白紙」回答した者も若干あるので手放しで喜ぶわけにはいくまい。

Q12「シラバスを参考にする」のは、4点台ぎりぎりの評定がされているが、これは学生自身の自己評価である。標準偏差が17項目中最大（1.09）となっており、個人差の大きいことがわかる。

記述統計量

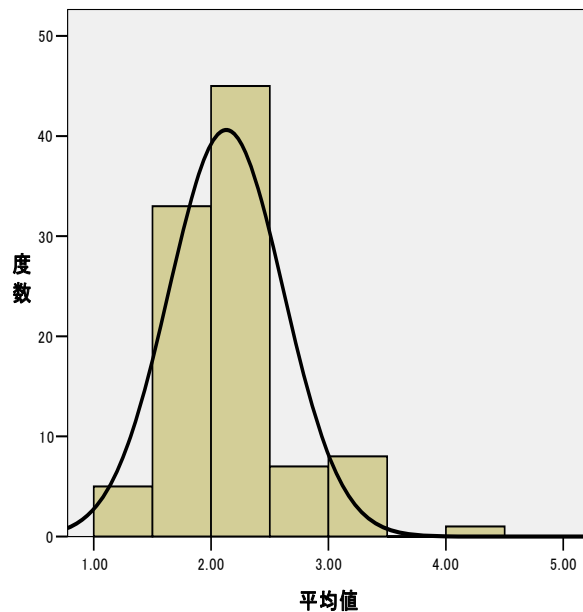
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2445	1	5	4.68	.633
Q2成績評価方法	2443	1	5	4.60	.715
Q3先生の熱意	2449	1	5	4.72	.601
Q4わかりやすい	2446	1	5	4.47	.891
Q5準備よい	2447	1	5	4.66	.677
Q6理解興味の工夫	2444	1	5	4.56	.780
Q7時間どおり	2442	1	5	4.68	.659
Q8質問の機会	2446	1	5	4.58	.751
Q9授業妨害へ対処	2438	1	5	4.49	.798
Q10薦めたい	2445	1	5	4.52	.853
Q11熱意を持って参加	2444	1	5	4.43	.837
Q12シラバス参考	2443	1	5	4.14	1.092
Q13授業を中座しない	2438	1	5	4.50	.793
Q14遅刻欠席ない	2433	1	5	4.26	.977
Q15予習復習時間	2295	1	5	2.10	1.085
Q16全体的評価	2367	1	5	4.26	.948
Q17別の科目も受講したい	2342	1	5	4.44	.936
有効なケースの数 (リストごと)	2126				

3 学習時間量の問題

前述のように、学生の予習復習に欠ける時間量の平均は 2.1 であった。いかにも少ないように思われる。科目・クラスを一括しての結果であったので、科目・クラスごとに平均値を求め、さらに平均値の平均値を求めた。この際、評定者の数が 10 名以上の 99 クラスを分析データとした。予習復習の時間量の平均は 2.13 であり、標準偏差は 0.49 であった。25, 50, 75 パーセンタイルとヒストグラムを次ページに掲げた。30 分程度の予習復習時間量である。

度数	有効	99
	欠損値	13
パーセンタイル	25	1.8077
	50	2.0667
	75	2.3333

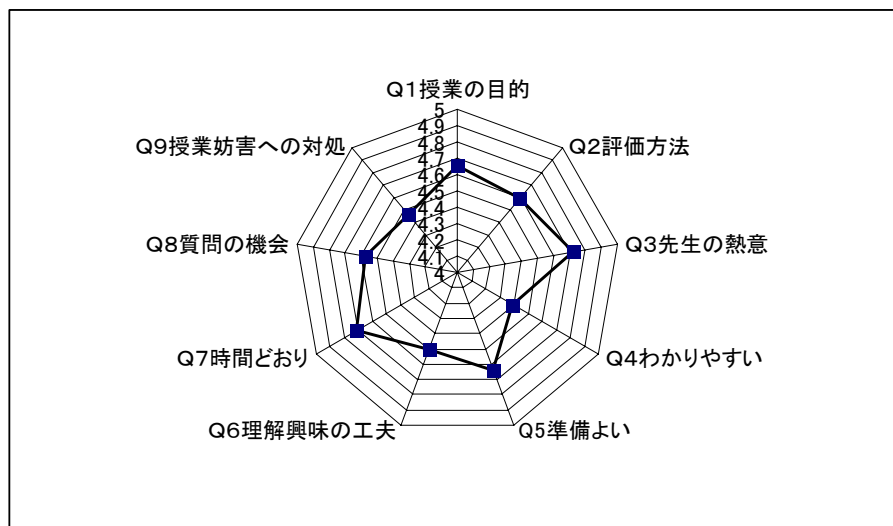
75パーセンタイルが2.33となっている。つまり、99クラスのうち約75クラスにおいて30分程度の予習復習しか行われていない



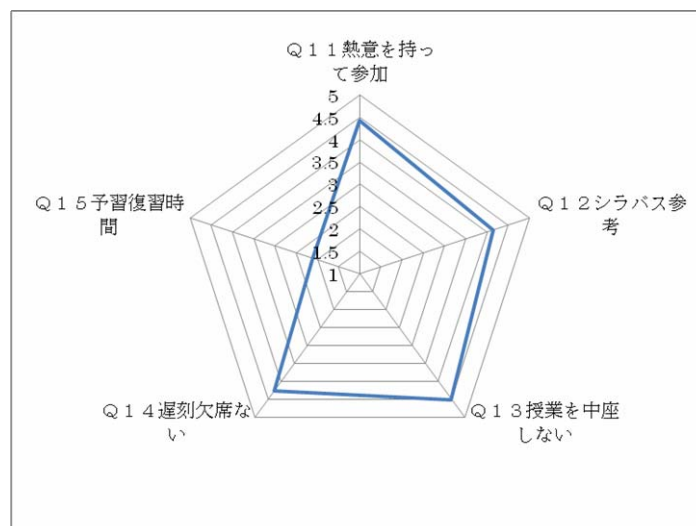
4 観点別比較

各評価項目の評価の「1」～「5」を1点～5点に読み変え、これらをレーダーグラフ化してつぎのページ以下に掲げた。Q1 から Q9 は、観点別の授業評価における教員要因である。目盛は4.0から0.1刻みで表してある。Q3「わかりやすい」がもっとも他の項目に比して凹んでいることが見て取れる。

教員要因としてどの観点で改善の必要があるのかが明らかであろう。すなわち「わかりやすい授業」と言うことになる。ところで、既に見たように該当するクラスの為の「予習復習の時間」の少なさが明らかになっている。予習復習をすることが授業の理解を高めるのではないか。現実としては教員は「わかりやすい授業」への対処が求められている。それは、Q6「理解興味の工夫」が求められていることから教員の奮起が期待されていると考えられる。Q3「先生の熱意」が高い評価を得ているので「学生—教員」関係は良好だと考えられる。



次に学生要因について見る。Q15「予習復習時間」の部分によって全体がいびつになっていることが見て取れる。すなわち、学習量が少ない。学生の側から見て授業時間以外に、自学自習いわば予習復習をしないでも成り立つ授業、教員側から見て学生に予習復習をさせない授業、これが本学の教育状況である。



5 自由記述による評価

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善して欲しい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったこと、④学長に聞いてほしいことの4つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業改善の資料を得ることである。

ここでは、②の改善点を中心に検討を進める。

改善点について記載のあったのは2452件中537件であった。約21%である。

537件の内、268件 (49.9%) は、表現こそ多様性があるとはいえ改善点は「ない」と記している。

改善点は①授業の進め方、②説明、③テキスト、④板書、⑤分かりやすさ、⑥宿題、⑦クラス運営、⑧評価、⑨早口、⑩出席管理、⑪プリント、等々多岐にわたる。これらは教員個人の資質に関する要因、施設設備関連に分けられる。

記述評価は客観評価に比べて具体性がある。授業の進め方ではペースが速すぎる、逆に遅い、と相反する意見が記載されている。説明では分かりにくい、難しい、何度も同じことを説明している、テキストに関しては価格が高いとされている。板書は、字の上手下手、ホワイトボードの文字が薄い（マーカーの品質の問題）、分かりやすさに関する指摘が散見される。難しい、専門的すぎる等々、受講生の現状を把握する上で課題のあることが浮き彫りになっている。クラスの運営については、おしゃべりが多いと指摘されている。評価方法について不満が述べられているがシラバスの確認が必要であろう。

教員の早口に学生が対処できていない現況も明らかである。出席管理については、特に遅刻の取り扱いに非常勤講師を含め、全教員の共通申し合わせが必要であろう。プリ

ントについては、多すぎると指摘する一方、プリント学習を求める意見もある。

自由記述の評言は、言うまでもなく、教員、科目等の区分を無視しての問題であり、また、いずれも多様な学生を対象としている課題だけに、一般的な改善策は提出困難である。

おわりに

2011 年度後期における本学の授業は、教員要因についてはほぼ満足な結果である。5 段階評価でいずれも 4 点を超えている。ただ、授業が「わかりやすい」に関する評価は、教員要因の全評価項目の中で一番低い評価となっている。絶望的に低い、といった状態ではないが、大学教育において「分かりやすい」という課題は論議する必要があるだろう。教員による学生の現状把握に課題があるかもしれない。すなわち、学生の「レベル」に適合した授業が行われていない、といった事なのかもしれない。多様な学力の学生集団に対する授業（教育）であるので、配慮すべき問題であり、いわゆる「学士力」の保証の点からすれば「分かる」授業の構築が求められている、ということではなかろうか。

学生要因については、特に授業時間以外の学習時間の短さが指摘できる。これは、学生がよりよく学習する教育が行われていないことを示唆するものなのかもしれない。

自由記述の部分において、「分かりやすい授業にしてほしい」という改善要望が多く寄せられている。改善点は「ない」とした者たち、あるいは「無記入」とした者の背後にも「分からしてくれ」と訴える無言の絶望があるのかもしれない。

教員の熱意が高い、また、学生自身も熱意をもって授業に参加している、と評価されている。学生と教員双方の熱意がほとんど空回りしているのではないか。「分かる授業」の問題について緊急に取り組み、改善し教育の責務を果たさなければならない。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおり終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	
5（3 時間以上） 4（2 時間ぐらい） 3（1 時間ぐらい） 2（30 分ぐらい） 1（ほとんどしなかった）	
16. この授業を全体的に評価してください。※当てはまる数字に○をつける。	5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	クラス名（ ）			
学籍番号*				
学 年	1	2	3	4
所 属 学 科	1 英語科 2 保育科 3 英語コミュニケーション学科 4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試	2 推薦入試	3 AO 入試	

*（学籍番号）できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

（裏面に記入）

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ（聞いてほしいこと）

（裏のページへ進んでください⇒）

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点																			
2. この授業に改善してほしい点																			
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。																			
4. 学長へ（聞いてほしいこと）																			